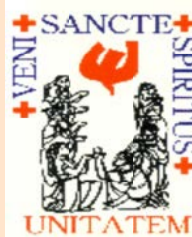


2018年3月4日 (第180号)
 発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
 〒760-0074 高松市桜町1-8-9
 TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
 Email
 教区: catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
 広報: tk-koho@mxi.netwave.or.jp
 生涯養成: yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
 WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



カトリック高松教区報

マザー・テレサの遺囑
 転がっている体、汚
 い衣服のうちに、人
 の子らのうちで最も
 美しいキリストを見
 つけ出すために、私
 たちは信仰という目
 を使います。
 愛、尊敬、そして、
 あの聖体を高々と掲
 げる司祭の信仰を持っ
 て

神学院卒業

高山 徹



お蔭様で、2月3日朝の修了ミサを以て、神学院を卒業致しました。これまでのお祈りとご支援に、心より感謝申し上げます。

未熟な私がここまで歩ませて頂いたことの喜びと感謝、別れの寂しさ、そして希望と責任を感じております。

今年度は助祭としての役務を沢山させて頂き、気持ちに胸を膨らませました。神学院では、スタッフの方々が迎えて下さり、さらに、年齢が20代から50代のバラエティー豊かな神学生達と出会いました。

朝の東京駅で、期待と不安を胸を膨らませました。神学院では、スタッフの方々が迎えて下さり、さらに、年齢が20代から50代のバラエティー豊かな神学生達と出会いました。

「知的」「霊的」「人間の思いをしながら」「自分の思いは、はっきりの言いなさ

「知的」「霊的」「人間の思いをしながら」「自分の思いは、はっきりの言いなさ

「知的」「霊的」「人間の思いをしながら」「自分の思いは、はっきりの言いなさ

「知的」「霊的」「人間の思いをしながら」「自分の思いは、はっきりの言いなさ

「知的」「霊的」「人間の思いをしながら」「自分の思いは、はっきりの言いなさ

「知的」「霊的」「人間の思いをしながら」「自分の思いは、はっきりの言いなさ

主と共に歩めますように

ちは見習いでも、現場では洗礼、祝別、説教、相談等“待ったなし”に修行することが出来ました。

2012年春の上京が、昨日のようす。昔のフオークみたいに、一人高松駅で夜行列車に乗り、到着した

その時その時は目の前のことに必死で、お叱りを受けたり、些細なことから学生間で衝突したり、時間を忘れて語り合ったり、慰められたり、何一つ無駄なものはない、あまりに恵まれた時でした。

1年生の頃、先輩に言われた言葉「神学院は、無難に過ごすのも可能だけど、チャレンジの場だよ」を心に刻んで参りました。

結果はどうあれ決断しやってみるの大切さ、それを通しての成長をMさんは強調したかったのだと思

「お言葉通り」に「と答えたマリア様に腹の底から望み、主と共に歩めますように、これからもお祈り下さい。

「お言葉通り」に「と答えたマリア様に腹の底から望み、主と共に歩めますように、これからもお祈り下さい。

「お言葉通り」に「と答えたマリア様に腹の底から望み、主と共に歩めますように、これからもお祈り下さい。

那覇教区の新任司教

バーント師が叙階



2月12日、那覇教区の安里教会で1972年以来となる外国籍司教ウエイン・フランシス・バーント師(米国籍・カプチン・フ

続々ミサの主司式は教皇大使ジョセフ・チェノットゥ大司教が引き継ぎ、全国の18人の司教と司祭団の共同司式で進められた。

1954年5月15日米国ワシントン教区フィッシャー・マサチューセツ州)生まれ。カプチン・フランシスコ修道会に入会、1981年に来日。1983年に米国で司祭叙階。以来、那覇教区やさいたま教区で働

叙階式は長崎教会管区の高見三明大司教が主司式を務め、ウエイン・フランシス・バーント師は参列者に司祭としての務めを果たしていく決意を表明し、押川壽夫司教の後継者として正

那覇教区の信者数約60200人。小教区13。23人の司祭(司教を含む)、4人の助祭、1人の修道士と64人の修道女が働く。(2016年12月現在)

「新福音化への思い」というテーマを以て、昨年10月に東京で体験した「新福音化のつどい」がまさに「福音化」ではなかったかと思われ、ここに報告いたします。

この「新福音化のつどい」が私の福音化の「きっかけ」になったのだと思えば、あの場で私たちは様々な出会い、祈り、分かち合うことでキリストに葡萄の木のように繋いでいたのだと思

少しの時間でもいい、神の内に、深く沈み込み、神の愛へのまっただき信頼のうちに幼子のように単純になつていくことができ

キリストを生きる「救い」

東京で「新福音化」のつどい



から30年が経ち、新福音化委員会から全国に向けて励ましのメッセージを発信するために、15教区から男女1名ずつが呼び集められた

高松教区からは委員長の諏訪司司教、松浦神父様、ブラザー八木と私が参加しました。まず事前の準備として、参加者には「私が引き受けてきた奉仕」と「見える範囲での福音宣教」についてレポートを提出することが求められました。

「新福音化のつどい」というテーマを以て、昨年10月に東京で体験した「新福音化のつどい」がまさに「福音化」ではなかったかと思われ、ここに報告いたします。

「新福音化のつどい」というテーマを以て、昨年10月に東京で体験した「新福音化のつどい」がまさに「福音化」ではなかったかと思われ、ここに報告いたします。

「新福音化のつどい」というテーマを以て、昨年10月に東京で体験した「新福音化のつどい」がまさに「福音化」ではなかったかと思われ、ここに報告いたします。

「新福音化のつどい」というテーマを以て、昨年10月に東京で体験した「新福音化のつどい」がまさに「福音化」ではなかったかと思われ、ここに報告いたします。

グループまとめの発表

「新福音化への思い」というテーマを以て、昨年10月に東京で体験した「新福音化のつどい」がまさに「福音化」ではなかったかと思われ、ここに報告いたします。

「新福音化への思い」というテーマを以て、昨年10月に東京で体験した「新福音化のつどい」がまさに「福音化」ではなかったかと思われ、ここに報告いたします。

「新福音化への思い」というテーマを以て、昨年10月に東京で体験した「新福音化のつどい」がまさに「福音化」ではなかったかと思われ、ここに報告いたします。

「新福音化への思い」というテーマを以て、昨年10月に東京で体験した「新福音化のつどい」がまさに「福音化」ではなかったかと思われ、ここに報告いたします。

「新福音化への思い」というテーマを以て、昨年10月に東京で体験した「新福音化のつどい」がまさに「福音化」ではなかったかと思われ、ここに報告いたします。

「新福音化への思い」というテーマを以て、昨年10月に東京で体験した「新福音化のつどい」がまさに「福音化」ではなかったかと思われ、ここに報告いたします。



参加者全員記念写真
 は人生で初めてと言って良
 いほどの自分への矜びを感じ

「福音宣教」誌の1月号に音楽学者の皆川達夫氏が、対談の中でギリシヤ時代にグレゴリオ聖歌「クレド」の伴奏として筆曲の「六段」が弾かれていたのではと話していました。

はばたき

2011年にテレビで実演を聴かれました。お琴と少し関わった者として思いがけない喜ばしいお話に、「六段」の楽譜を見ましたが、よく解らず、先生の今後の研究を楽しみにしています。

ある聖女はしばしば靈魂を堅牢にたえています。神への賛美の調べを奏するためにその琴はよく調弦(自己統一)されていくてはならないと語っています。

私たちは孤独と沈黙を恐れ、自分と向き合うことを避け、テレビやスマホに気を散らし、出来る限り神から遠ざかるうとしていくかのようにです。

そのために自分のもっている力を分散させてしまっているのです。その聖琴の弦は調子よく響かないので、主の御手がそれに触れても、神聖な音律を奏することができないのです。

少しの時間でもいい、神の内に、深く沈み込み、神の愛へのまっただき信頼のうちに幼子のように単純になつていくことができ

そういう聖女に静かに共鳴するかのよう八木重吉の「素朴な琴」という詩があります。

「この明るさのなかへ／ひとつの素朴な琴をおけば／秋の美しさに耐えかね／琴はずかに鳴りいだすだろう」

この春、司祭叙階される高山助祭のうえに主と聖母の祝福がありますように。

高松教区女性の会
 日岡育子

さらなる発展誓う 聖力短大50周年・大学30周年



各界各方面からの参列者と共なる記念式典

10月21日(土)、愛媛県北条キャンパスで聖力タリナ大学短期大学部創立50周年・聖力タリナ大学創立30周年の記念式典が行われた。

式典には、学長をはじめとする本学教職員・学生が出席し、官公庁、教育、医療、経済業界から多数の方々のご臨席を賜り、約800人が出席した。

式典の冒頭、主の祈り、聖書朗読が行われた後、ホジノ・サンミゲル学長の式辞に続き、中田婦美子理事長より挨拶があった。来賓祝辞では、中村時広(愛媛県知事様(代読))、野志克仁(松山市長様(代読))、聖ドミニコ宣教師修道女会 日本管



学校食堂で盛大に祝賀会

多くの聖力タリナ大学愛好者の援助と支援のおかげであり、歴代の理事長と学長、理事会の決意、教職員の協力、後援会と卒業生の支えがあったからである。



記念講演を行う宮本久雄師

50周年・30周年を迎えられたことに、全ての皆様へ心から感謝し、これからも聖ドミニコと聖力タリナの保護のもとで素晴らしい発展が出来るように努めてまいります。

【北条キャンパス】
〒799-2496 愛媛県松山市北条660
電話：089-993-0702(代)

【松山市駅キャンパス】
〒790-0022 愛媛県松山市永代町10番地
1 電話：089-947-0502(代)

聖力タリナ大学 人間健康福祉学部「看護学科」
聖力タリナ大学 人間健康福祉学部「社会福祉学科」
「人間社会学科」
「健康スポーツ学科」聖

召命を育てる 活動にも支援 一粒会委で確認

一粒会委で確認

2月3日(土)、高松司教館において一粒会委員が開かれ、左写真以下のこと確認・承認されましたのでご報告します。

一粒会献金の使途は、従来の「高松司教区神学生養成及びそれに伴う諸経費の援助」、「日本カトリック神学院への分担金」に加えて、「諸委員会活動の内、直接あるいは間接的に大いに召命に資すると本会において認められた活動への援助」、「本会が認める司祭・助祭・修道者の生涯養成に関する援助」も追加することになりました。

また、教区民一丸となって、引き続き召命活動に取り組み、青少年の召命を育てていく決意を確認しました。



一粒会活動についての活発な討議

この度、カトリック大阪教区管区部落差別人権活動センターの高松教区担当司祭に任命されました、岩崎武(左写真)です。



司祭に叙階されてから18年、今は小豆島教会を担当し、また教区本部事務局にも週2回程、小豆島から通っています。高山右近の事にも関わらせて頂いています。

この担当に任命されてから、教区の「人権を考える委員会」に2回参加して状況を少しずつ把握しながら、学んでいるというところです。

差別・偏見などない世に 大阪教区管区部落差別人権活動センター

香川県には、大島という島にハンセン病患者の方々のための国立療養所大島青松園があります。そこに大島教会があり、信徒の方々もいました。

私が司祭になったころ毎日曜日の午後からミサのためにそこへ行って、ミサを捧げた後、信徒の方々と交わりの時を持っていました。

しかし、その時も特別な意識は接してはいなかったと思います。お互いに、ただ普通に接していったように思います。

無意識に、自然に接しようという思いがあったかもしれません。

反対に気を使われていたかもしれません。おそろくそうでしょう。慣れない頃で、精神的にも余裕がありませんでしたから・・・

学生時代に同和教育を少し受け、その委員をしたぐらいです。こと同和問題となると、司祭になつてからは直接関わる機会はありませんでした。

全く話さなかったという訳ではないですが・・・しかし、無意識の中で意識していたのかもしれない。

その中で見たり体験したりするのは、やはり、差別、偏見、無理解、不寛容、拒絶、無視・・・悲しくつらい事になることもあったり、又新たな地平が見えてくるような事も。

このようにふり返りながら、今、主から求められているのは、やはり謙虚に学ぶことなのかなと今更ながら感じています。

センター担当司祭 岩崎武

祈り
苦しみ悲しみに耐えて生きることがそれ自体も祈りだよ
あなた自身が神へのもうそのまます祈りになっている

生きる
生きていくことは素敵だ
こんなにきれいな晴れた空が見えるもの
そしてこんなに優しい人々に会えたもの

信仰の喜び

「信仰の喜び」の派生的結果として「共生の喜び」があります。

私が修道院の共同生活を始めた修練者の頃に修練長講話の中で、「神様の造られた人間ひとりひとりの中に三位一体の神様が住んでいらっしゃる」と言われたことを聞いた時から、共に住んでいる

信じ合い共に生きる喜び

「美しい兄弟愛」を謳っています。何回も口ずさみたくなるとも美しいその喜びを味わっています。

聖パウロがコリントの信徒への第一の手紙6章の中で「あなたがたの性格性と他者性を認め合っ

て、信じあう喜びが伝わる雰囲気が大切だと私は思っています。

私ひとりでは大それたことはできませんから、せめて、日々出会う人々に聖父と聖子と聖霊の三位一体の神様、信・望・愛の対象である神様を信じて生きる者の喜びが伝わると嬉しです。

信仰の喜びの味わいの中で生きていることに感謝!

聖ドミニコ宣教師修道女会
坂出修道院
Sr.河野恵千子



長年恒例の信徒による青松園訪問：大島聖堂でのミサの後

まず、乾神父様の里と家族についてお聞かせください。

私の里は紀伊水道の北端鳴門の撫養、四国八十八所巡礼の入口の町です。

両親は廃藩置県の明治維新の平民化が進んだ頃、三十年代の生まれで、当時の世情の変化を感じながら育ったに違いありません。

母は武家の生まれでしたが、幼くして乾家の養女に入り、小鳴門海峡の堂の浦という漁師町で、大事に育てられたそうです。

父は東南の、山と谷間のつづく驚敷の農家に次男として生まれ、山や田畑の分譲もならず、教師の道に精を出したそうです。母の乾家に入り、世に役立つ家族を創ったようです。

二人して、育つ者に精一杯尽くす性が働いていたようです。二人の出生から身につけた生き方だったのではないかと、私たち子どもは観ていました。

子どもは上から男子6人、女子3人でしたが、私は五男です。生活には父の給与だけでいいので、少しの庭でいろいろの野菜をだいたい作っていました。

鶏や兎も飼ってみんな世話をしていました。これらはとてもよい食文化の実践でした。

母には心臓の持病があり、発作が起ると寝込んで居たので、そんな時は、私たちが力を合わせて食事を用意したり、家のことを切り盛りもしていました。

元氣な母は宝でした。でも母が身ごもっているときに発作が起らなかったことは、母からも胎児の力だと聞かされてい

そうではありませんが、神仏を祭り、毎日いっしょに供え物をしていたから家族の食事が興味をもつて観ていました。このちのちのころを覚えさせられました。

病いが修練院入りのきっかけ

十一月の大潮の満ち潮ののって入ってくるハセ

紹介 司祭 乾 盛夫 師



優しいまなざしで園児を祝福する乾師

今も幼稚園で幼児教育に力注ぐ

カトリックとの繋がりは、を釣っていたとき、教理の回心からに違いないのです。

終戦後間もない昭和22年頃には、もう若い人が飽くことなく学び語る「十字架同志会」が活躍していました。

画家の津田秀穂氏が田中英吉神父(後の司教)の印象に残り、これが家風だったと誇にさえ思えて嬉しかったということから参加し、受洗しカトリックが家に入り、兄のオブレイト会宣教師が慣れない日本で、献身的に寛容さがうんと深まり、イエス様の教えを宣教されていく姿に感銘を覚えていました。

のだったのでしょうか。

この修練院での第1号誓願宣立者は津田秀穂先生でした。私は彼に倣って修道誓願を目指していましたが、ラテン語の習

いよいよ高校卒業が近づく、卒業後の進路を考えたとき、私はその生き方から、希望していた農業大学への入学が出来なくなりました。今思えばこれも神の計らいだったの

初誓願を立て、ワシントンにある当会の神学校に移りました。

私は哲学科2年目から履修し、神学科を4年修学し、助祭に叙階されました。

その後しばらく助祭職を務め、7年のアメリカ滞在を終えて1964年に徳島に帰ってきました。

その前の年に大阪教区の知牧区だった四国は高松教区となり田中英吉神父が高松教区司教として着座していました。

その田中司教から疏黄神父と私は司祭叙階を受け、私は3カ月の休みをもらった後、2年の間、上智大学で第2バチカン公会議後の信徒神学を学び、福岡の古賀教会に派遣されました。

一方、疏黄神父はブラジルでの宣教を志し、叙階後に出発しました。

いては

ここまで司牧畑ではなく、教育畑で働いていましたので、鳴門ではどう

古賀の教会には助任司祭として派遣されましたが、オブレイト会のポリシーとして地域の人の教育文化にも資する働き

ここが私と幼稚園、そしてモンテッソーリ教育の出発点になりました。

私はいつも、教会は福音を告げる人たちの集まりであり、信徒一人ひとりには宣教師であり、そのひとつの家族だと思ってきました。

幼稚園教師にもそこで学んでもらったり、経験深い先生に1年ほど準備を手伝って頂いて幼稚園への導入に至ったわけでした。

九州での幼児教育には主に古賀の暁の星幼稚園を含めて37年間関わりましたが、その間に多方面の方々の協力を仰ぎながら九州のモンテッソーリ協会支部として、モンテッソーリ教育センターの立ち上げに携わりました。

ですから私は司牧畑ではなく主に教育畑で働く司祭として働きました。

鳴門教会には2003年に赴任し、今年で16年になります。

「あわれみの賛歌(キリエ)」は、信者が主に呼びかけて、そのあわれみを歌う歌(「ミサ典礼書の総則」30)であり、また、罪びとである私たちをその食卓に招いて下さる、あわれみ深い主をたたえる賛歌です。

この救い主キリストは、復活して父の右に座し、聖霊と共に父の栄光のうちにおられ、私たちの祈りを神にとりなして下さるのです。

「栄光の賛歌」は4世紀ころ、朝の祈りに用いられていましたが、たえ(「総則」31)ながら、これからミサの中心で行われる賛美と感謝と願の祈りへと導き入れられていきます。

「聖霊のうちに集う教会は、この歌をもって神なる父と子羊(御子)をたたえ、(「総則」31)ながら、これからミサの中心で行われる賛美と感謝と願の祈りへと導き入れられていきます。

「この祈願によって、祭儀の性格が表現され、嘆願(一人ひとりの願ひ)が、司祭のことばによって、聖霊において、キリストを通して、父なる神に向けられる(「総則」32)こととなります。

「集められた祈り」の意味)と呼ばれ、日本語では「集会祈願」と名付けられています。



谷口広海

『典礼奉仕』のために (31) やさしく学ぶ感謝の祭儀 その2 あわれみの賛歌と栄光の賛歌

「あわれみの賛歌(キリエ)」は、信者が主に呼びかけて、そのあわれみを歌う歌(「ミサ典礼書の総則」30)であり、また、罪びとである私たちをその食卓に招いて下さる、あわれみ深い主をたたえる賛歌です。3回に分けて行われるこの賛歌は、三位一体の各ペルソナ(位格)に向けられたものではなく、いずれも会衆と共に祈る主キリストに向けられています。「栄光の賛歌」は4世紀ころ、朝の祈りに用いられていましたが、たえ(「総則」31)ながら、これからミサの中心で行われる賛美と感謝と願の祈りへと導き入れられていきます。「聖霊のうちに集う教会は、この歌をもって神なる父と子羊(御子)をたたえ、(「総則」31)ながら、これからミサの中心で行われる賛美と感謝と願の祈りへと導き入れられていきます。現在の「この祈願によって、祭儀の性格が表現され、嘆願(一人ひとりの願ひ)が、司祭のことばによって、聖霊において、キリストを通して、父なる神に向けられる(「総則」32)こととなります。

TSC便り 東日本大震災応援ツアー募集

1日目 9時半頃 南三陸町でボランティア活動
11時45分 花巻空港
13時頃 昼食 大船渡ベース (旅行保険代と滞在費をお預かり)
14時頃 大船渡の震災時のDVDを見た後、市内被災地案内:菅原ベース長
17時 分かち合い〜夕食 (復興商店街など)
19時 (大船渡ベース) *お風呂は近隣の温泉orベースのシャワー
2日目 朝食は各自
8時半 朝のミーティング
9時 陸前高田の震災時のDVDを見る
9時半 大船渡ベース出発〜陸前高田市案内
11時 昼食 気仙沼 (復興商店街など)
12時半 南三陸ベースの車に乗換、南三陸町へ (震災遺構等案内:千葉ベース長)
お風呂 (南三陸温泉ホテル観洋)
17時半 カリタス南三陸着 分かち合い〜夕食 宿泊 (カリタス南三陸)
3日目
7時 朝食 (セルフサービス)
7時45分 出発 キリシタン殉教地三経塚でお祈り

教区スケジュール

3月
2日 (金) 性虐待被害者のための祈りと償いの日
4日 (日) 四旬節第3主日 宣教司牧評議会全体会 (〜5) in徳島
6日 (火) 司祭評議会10:00
10日 (土) 教区の将来を考える会13:30
11日 (日) 四旬節第4主日
17日 (土) 日本の信徒発見の聖母
18日 (日) 四旬節第5主日
19日 (月) 聖ヨゼフ
21日 (水) 春分の日 司祭叙階式in司教座聖堂13:00
25日 (日) 受難の主日 (枝の主日) 世界青年の日
28日 (水) 聖香油祝別ミサ11:00〜
29日 (木) 聖木曜日 (主の晩さん)
30日 (金) 聖金曜日 (主の受難) (大斎・小斎) 聖地のための献金
31日 (土) 聖土曜日 (復活徹夜祭)
4月
1日 (日) 復活の主日
4日 (水) 山下 悟師命日
8日 (日) 復活節第2主日 (神のいつくしみの主日)
9日 (月) 神のお告げ
15日 (日) 復活節第3主日
16日 (月) 春の司祭・助祭集会在北条セミナーハウス (〜17)
21日 (土) 子どもの集いin北条 (〜22日) [助祭候補者認定式]
22日 (日) 復活節第4主日 世界召命祈願の日
25日 (水) 聖マルコ福音記者
29日 (日) 昭和の日 復活節第5主日
30日 (月) 振替休日

殉教の道で母へ手紙

道後教会で聖トマス小崎版画展

版画を鑑賞する来場者



『お母さん、パライン (天国) ですぐお会いできます』。日本二十六聖人殉教者のひとり聖トマス小崎少年が殉教を前にして切々とつづった母への手紙が胸を打つ。
当時14歳だった聖なる小崎少年を偲ぶ版画展が、二十六聖人の祝日を機に2月4日から道後教会聖堂2階で開かれている。
会場には京都から長崎までの苦難の道での小崎少年が広島の三原城で母への手紙を書く場面、縛られ連行される場面、司祭と別れを悲しむ姿、殉

えられ市中引き回しの後、処刑のため大阪から長崎まで800キロの道を歩かされた。その中に父ミゲルもいた。
酷寒の中、はだして歩く約1ヵ月の過酷な道中だった。広島から三原まで来た時、秘かに役人から筆と紙をもらい母への手紙を書いた。
『長崎でハリツケにされるためここまで来ました。私のことは心配されませんように。パライン (天国) で母とすぐお会いできます』。
この手紙は母へ届かず、522)まで。
処刑後に父ミゲルの遺体の襟から発見された。下関で2人の信徒が加えられ殉教者は26人となった。
会場には次々と信徒らが鑑賞に訪れた。教えを守り、神の住む天国へ希望に燃えて殉教への道をひたすら歩み続けた聖なる少年小崎の熱い想いをしのんでいた。
同展の会期は4月29日まで毎日曜日午後1時まで、毎火曜午後1時半〜4時半。
問い合わせは道後教会 (089) 9247

カトリックの精神

諏訪司教から学ぶ 香川で幼稚園研修会

平成30年1月27日(土)カトリック番町教会に県下7園より幼稚園教師が集まり香川県カトリック幼稚園研修会が行われました。
諏訪榮治司教様から



ず、私たちは日常の生活の中で掌を合わせて祈ることがあると思います。カトリックの歴史や精神についての話を聞くことで、目には見えない神様の思いを、そして神様の心を持って一人一人のことを大切にされたイエス様の愛と優しさを感じる事ができました。
子どもたちと関わる姿勢、子どもと同じ目線でコミュニケーションをとる、寄り添うことで見えてくる思いを受け止め、愛情をもって接することが必要であることを再認識出来ました。
また、司教様が読まれた本の紹介をして下さり、「IT」

子どもたちの環境の中も同様に、本人の意思とは異なり、過剰な期待や決め付けなどで負担に感じることがや、そこから負の連鎖が生じてしまうことがあるかもしれないという話を頂きました。
現実の目で見ることで、人々を評価したり、レッテルを貼ることは負の人間関係をつくってしまいうこと。
そして、それぞれの私を大切に日々の保育や生活の中で向き合っていくことです。
長尾聖母幼稚園 土居美紀

カトリック幼稚園が大切にしていること

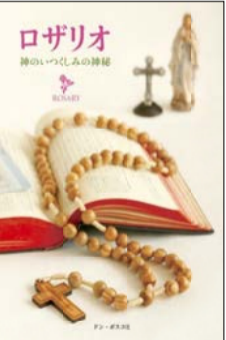
カトリック幼稚園が大切にしていることについて考えてみました。人それぞれには境遇、タレント、得意、不得意等あります。しかし、それをど



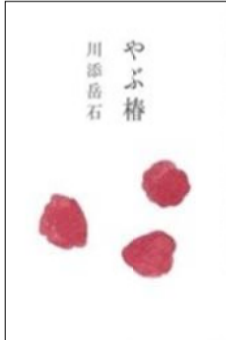
諏訪司教講話「耳を傾ける参加者」

新刊書籍紹介

『ロザリオ神のいつくしみの神秘』
この小冊子は、はじめてロザリオに触れる人に限らず、広くロザリオに親しむ人の祈りと黙想の助けとなるものです。ロザリオの珠を繰り、聖母マリアとともに祈りの旅へ出かけましょう! (本文より抜粋)
ロザリオの唱え方、4つの神秘の解説、黙想の助けとなる名画、各黙想で朗読する聖書箇所に加え、よりロザリオを深めたい方のための手引きや、聖マリアへの連願を含めた各種祈りも収載。
A6判 38頁定価 本体300円+税 ドン・ボスコ社



『やぶ椿』川添岳石 著
死と笑い、切なさや慰め、そして希望によって編まれた句集『やぶ椿』は、削ぎ落とされたいのちから生まれたものです。そしてこの句集は、俳句という受け皿でキリストの福音を生きた川添岳石の遺言です。(古巣馨 著)
★目次 まえがき 古巣馨
ムシの叫び 橋口町1-1 煩悩 母なる島 旅の空 異邦人 靴ひとつ あとがき
四六判上製 192頁 本体1,200円+税
ドン・ボスコ社



告知板

高松教区終身助祭候補者認定式

候補者:小山一 (徳島教会)
R・Tウィリアムズ(観音寺教会)
日時:4月22日(日)
場所:北条聖カタリナセミナーハウス (子どもと中高生の集いのミサが近い)

TSC 高松教区サポートセンター
東日本大震災大船渡支援
献金入金報告(急ぎ)
(10月25日〜2月10日分として)
12万円
累計(2月10日現在)
1千722万1392

編集後記
今年も四旬節を迎え、ひとこととして、あゆみと信仰者としての歩みを見つめ直す恵みの時を過ごしています。
聖週間、ご受難とご復活を心からの喜びを以て迎えることが出来る恵みを願います。
この冬、厳しい寒さを経験しました。でも、春の温かさはすぐそこです。そしてその温かさを象徴する高山助祭の司祭叙階式もすぐ目の前です。
この恵みを心からの喜びと感謝のうちに迎えたと思います。(J)

神を観想し、
聖ドミニコ宣教修道女会
私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう
暁の星学園
鳴門聖母幼稚園 高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園 海の星幼稚園